

4月から電力の小売全面自由化が始まります！



松太郎 第10回 絵・みざき

※小松市立高校芸術コース美術専攻

事例 知らない事業者から「電気代が安くなるプランの説明に行きたい」との電話があった。信用してもよいか。

トラブル回避のポイント

- ◆4月1日から、消費者が電気の契約先を自由に選択できるようになります。
- ◆電気を販売する「小売電気事業者」は登録制です。事前に登録事業者かどうかを確認しましょう。
- ◆販売契約を締結する際に、事業者は消費者に対して契約内容を記載した書面を交付することが義務付けられています。内容をよく理解してから契約しましょう。

東日本大震災から5年 応援しよう！石巻市

問い合わせ 広報秘書課 ☎24・8016

市では、大震災で亡くなられた方々を追悼するとともに、甚大な被害を受けた宮城県石巻市への職員派遣など、現在も復興支援を続けています。これからも被災地を知って・旅して・食べて、みんなで応援していきましょう。

石巻市おすすめの人気スポット&グルメ

■石ノ森萬画館

仮面ライダーやサイボーグ009で知られるマンガ家・石ノ森章太郎氏のミュージアム。貴重な原画や体験アトラクション、オリジナルアニメの上映など、石ノ森ワールドを満喫できます。



■宮城県慶長使節船ミュージアム

約400年前に伊達政宗の命を受けスペイン、イタリアへ向かった木造船を復元した「サン・ファン・パウティスタ号」を係留・展示し、当時の歴史を伝えています。

◎慶長使節船「サン・ファン・パウティスタ号」(宮城県慶長使節船ミュージアムに展示公開中)

■世界三大漁場のおいしい海の幸

石巻市が有する漁場「三陸・金華山沖」は、特に漁獲種の多い優良な漁場として、世界三大漁場の1つと呼ばれています。



▼ブランド魚「金華さば」



「後ろに隠しとるもん、こっちにイクソ！」
「やだよ～」

小松方言の語源 その41

京都語由来の「アワシヤ」と「イクス」

今回は、かつての中央語(京都語)由来の方言として、「間」の意味の「アワシヤ」と、「くれる(よこす)」の意味の「イクス」を紹介したいと思います。

2012年11月号(連載176回目)から続けて来た京都語由来の小松方言の紹介も、3年以上経って40回を超え、代表的なものはほぼ取り上げたように思いますので、今号で終わりにして、次号(新年度)からは別のテーマで思っています。

「アワシヤ」は古語「あらい」からの変化か

小松では、物と物の「あいだ間」「隙間」を指して「アワシヤ」と言っています。「ツクエト」ツクエノ「アワシヤ(机と机の間)」のように使われま



加藤和夫 ●金沢大学人間社会学域教授・日本語学

す。アワシヤは、「(時間的、空間的な)ものとの間、間隔、すきま」を指し、源氏物語に「几帳どもの立てちがへるあはひより見通されて、あらはなり」(傍点筆者)のように登場する古語「あらい」に由来すると思われる。「日本方言大辞典」(小学館)によれば、福井県の敦賀や嶺北地方北部にアワシヤ、アワサの形が見え、さらにアワサイの形が新潟の佐渡、富山、福井、岐阜の飛騨、滋賀、京都兵庫、和歌山、鳥根など、近畿およびその周辺に分布していますので、小松で聞かれるアワシヤは、「あらい」が京都方面から福井を経て伝わる過程で、アワシヤ→アワサ→アワサイ→アワシヤのように変化したものだろうと考えています。

イクスは中世末期京都語に由来

小松の方言で「(人が自分に何かを)くれる」といった意味で使われるイクス(自分に「よこせ」と言う場合の命令形はイクセ、イクソとなり)は、かつての中央語(京都語)の「よこす」が変化して室町時代末期京都語の「いくす」に由来すると考えられています。中世末期の京都語文献の一つである「狂言記」の中に「身どもにまいってとってこいとおっしゃられましたほかに、いくさ、しやれませい」(傍点筆者)のように登場する「いくす」が見えます。イクスは「日本方言大辞典」によれば、新潟、富山、石川、そして福井の嶺北地方の範囲に分布していることがわかりますから、先の「あらい」と同様、「いくす」が京都方面から伝わったものではないでしょうか。例えば、「キヨウ」ダチャカデモ コンダ カナラズ イクスカ(今日は駄目でも今度は必ずくれるか)のように使われます。

歴史の舞台裏

連載 209

大小松建設の第一歩 公会堂

図書館において、昭和30年代の小松を映した16ミリフィルムがDVD化されました。そのプログラムの中に、公会堂の着工から落成までを収録した「公会堂」の映像が、当時の工事の様子をよく伝えてくれます。

かつて公会堂の地には能美郡自治館が建てられており、当時の建物を博物館に転用するために、現在の博物館の位置まで移動する曳屋工事が行われました。長さ数10センチの柱を幾つか柱の下に入れて、少しずつ転がしながらコロを移動させて動かすという気の遠くなるような手作業でした。また、鉄骨固定のため、熱したリベット(ボルト)を下から上に投げ渡し受け取る様子は、まさに神技でその手早さにただ感嘆するばかりです。

公会堂建設の工事は着工から一年も満たない昭和34年5月に完成し、6月には全国公民館大会の会場として全国各地から2千人が集まりました。

鉄骨鉄筋コンクリート造4階建てで、5、9階は展望塔が建ち、最上階から小松が一望できました。ライオンズクラブが寄贈したミュージックチャイムが一日5回展望塔から鳴り響き、市民の時計代わりとなりました。



▲落成式の様子

公会堂は一流文化伝導の役割を担い、大小松建設の足掛かりとなりました。教育庶務課市史編集担当 ☎24・8274